

〔編集後記〕

『社会科学ジャーナル』49号をお届けします。

今回は、論説として、子ども買春反対運動を繰り広げる非政府組織の役割を扱うロジャー・バックレイ所員論文、国際基督教大学にとっては創設者のひとりとして、そして初代学長として重要な役割をはたされた湯浅八郎博士の研究を通じ二十世紀という時代を解明しようとする武田清子顧問による論文（4回の連作の第一回目）、さらに宮崎修行所員によるJ・クロークの環境会計の分析とそれを通じた環境会計の本質的問題の検討を行う論文を収めました。研究ノートとしては、上海株式市場における株価のリスクファクターを分析した竹澤伸哉所員論文を掲載しました。さらに2002年前半に行われました、ナズィルディン・アブドゥラ国際イスラム教大学準教授、エリック・C・ワン國立中正大學教授、安積力也恵泉女学園中学・高等学校校長による3つの公開講演会要旨、2001年度末に本大学を退職されました安藤勝美顧問の最終講義要旨を収録いたしました。

私的なことですが、『社会科学ジャーナル』の編集委員を務めて1年数ヶ月がたち、任期も残すところあと2学期となってしまいました。委員をひきうけた当初は、ジャーナルをよりよきものにしようと、装丁、執筆要項などに関し、いろいろなアイデアを本部尚志委員と一緒に出し合ったりしましたが、とにかく大学の様々なできごとに忙殺され、思うような貢献ができずにいるのが心残りです。ただし次号から、編集助手の氏名が奥付に掲載されるようになりました。社会科学研究所には、ジャーナル発行やシンポジウムの企画などさまざまな仕事がありますが、その裏方としての研究所助手の献身的な作業には常々驚かされます。そして彼女ら・彼らの仕事なくしてジャーナルおよび研究所運営はなりたたないにもかかわらず、それが所員の仕事の影となり、なかなか正当な評価を受けにくいことに心苦しさをおぼえてきました。それに対するおわびと日頃の感謝の気持ちをこめて、非常にささやかですが、ジャーナル改善への一歩を歩みだしました。（といってもその作業自体、助手の方々の手によるものです！）ただし従来どおり、本ジャーナルに関する全ての責任は編集委員が負うことを改めて記し、編集後記を締めくくりたいと思います。

（文責 御巫由美子）